

徳島県立板野高等学校 部活動活動方針

＜部活動の教育的意義＞

○部活動は、学校教育の一環として各部活動顧問の指導の下、生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであり、スポーツ・文化芸術を親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものである。

○部活動は、心身の成長過程にある生徒においては、体力や技術を向上させるとともに、他者を尊重し他者と協働する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む場となる。また、教育課程とあいまって、学校教育が目指す「生きる力の育成」「豊かな学校生活を実現させる」役割を果たしており、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、教育的意義が高い。

本校部活動は、以上のことを踏まえ、本活動方針に基づいて活動するものとする。

なお、活動にあたっては、次の留意点に配慮しながら活動することとする。

＜活動上の留意点＞

○部活動は生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであり、部活動顧問は生徒の理解を得るために、活動目標や方針、計画などを適宜適切に説明することが必要である。

○部活動顧問は、学校教育について理解し、適切な指導を行うために、部活動の位置付け、教育的意義、生徒の発達段階に応じた科学的な指導、安全の確保や事故発生時の対応を適切に行うこと、体罰やハラスメントはいかなる場合も許されないと、服務を遵守することを念頭に置き指導を行う。

○休養日及び活動時間等の設定については、学校の実態を踏まえた工夫として、定期試験前後の一定期間等、各部共通の休養日を設けることや、週間、月間、年間単位での活動頻度・時間の目安を定めることとする。

○体育部顧問は、スポーツ医・科学の見地からは、トレーニング効果を得るために休養等を適切に取ることが必要であること、また、過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと等を正しく理解し、分野の特性等を踏まえた効率的・効果的なトレーニングの積極的な導入等により、休養等を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。

○文化部顧問は、生徒のバランスのとれた健全な成長の確保の観点から休養等を適切に取ることが必要であること、また、過度の練習が生徒の心身に負担を与え、文化部活動以外の様々な活動に参加する機会を奪うこと等を正しく理解し、分野の特性を踏まえた効率的・効果的な練習・活動の積極的な導入等により、休養等を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。

については、休養日及び活動時間の設定にあたっては、次を基準とすることとする。

<休養日及び活動時間>

○原則として、週当たり2日以上の休養日を設ける。平日1日、土日は1日以上を休養日とする。

○長期休業中は学期中に準じた扱いを行う。また、生徒が十分な休養をとることができるとともに、部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間（オフシーズン）を設ける。

○一日の活動時間は、平日は2時間程度、土日祝日や家庭学習日などは3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。

※練習試合や大会、連続して練習を行う必要がある場合などは、他の日に休養日を設けるなどして振り替える。

<設置する部活動>

体育部：バスケットボール・バドミントン・バレーボール・卓球・サッカー・

硬式野球・ウエイトリフティング・柔道・剣道・相撲

文化部：美術・書道・写真・音楽・演劇・愛真会・JRC・クリエイティブ・

茶道・科学